



整理No. 2015-52		労働災害状況調査表			
災害発生日時		2015年 5月27日(水) 15時分 天候(晴れ) 温度(°C)湿度(%)			
災害区分		○不労災害 ー休業災害(休業:△日)			
被災者	部門	化成品事業部技術部		雇用形態 ○正社員、派遣、契約、その他()	
	年齢	34歳	性別: ○男 ー女	勤続年数 8年10か月	経験年数 8年10か月
	傷病名	病名 (一) 化学物質を含む廃水の接触			
	傷病部位	胸部及び顔面(目を含む)			
災害発生状況	<p>・反応缶下に設置してある分離タンクからホルムアルデヒド含有廃水約20Lをクローズドラムに抜き出す操作を開始した。</p> <p>・抜き出し操作初期にドラム口部の配管がずれ、廃液が噴出した。</p> <p>・噴出した廃液は胸部、および顔面部(目も含む)にかかった。</p> <p>・被ばくした部位を本人が水で洗い流し、その後シャワーにて全身を洗い、作業服等を交換した後、病院へ行き診察を受けた。</p> <p>・診察の結果、特に目立った薬傷は見られないとのこと。目が充血していたが、通常目薬にて一晩様子を見、翌日に再度診察を受けることとなった。</p> <p>皮膚科も受診したが、異常が見られないため、処置はしなかった。</p> <p>・尚、作業者は保護メガネを着用していたが、噴出した廃液がドラムの蓋に当たり、その跳ね返りが保護メガネの下部より目に入った。</p>		状況概略(写真orイラスト) 		
	災害の型 ^{※1)}	8. 有害物との接触		作業の形態:定常、○非定常、ーその他()	
	起因物:	ドラムへの配管による直接投入		特記事項:担当者は当日応援業務	
原因分類	1.人的要因(man)				
	コック開閉の不慣れ(勢いよく排出させた)				
	2.物に関する要因(machine)				
	配管出口とドラム入口が噛み合い難い				
3.環境要因(media)					
4.管理的要因(management)		(対策後の状況)↑			
本作業が危険との認識がなかった					
対策	作業者:フルフェイス防毒マスク、またはゴーグル+防毒マスクで作業を行う				
	設備:排出口を身体から約50cm離れた。ドラムに浮き秤を付け、充填量を離れていても確認できるようにした。漏えい対策として、移動式の堰でドラムを覆うこととした。				
	作業手順:反応指導書に廃液抜出作業を明記し、注意を促せるようにした。				
	その他:当業務の就業認定を新たに設け、評価修了者のみが就業することとした。				
緊急時訓練:緊急時対応マニュアルを作成した。(環境対応)					
対策分類 ^{※2)} :		1-2、1-4、1-6			

※1) ①から選択

※2) ②から選択(複数可)